

～このコーナーは、岩国ゆかりの人物『独立性易禅師』についてシリーズで掲載します～

独立性易禅師

どくりゅうしょうえきぜんじ
禅師 易 独立性

第4回

～岩国横山に残したもの～

ひろよし

広嘉と独立が出逢い、「西湖遊覧志」を見たことが、美しい錦帯橋を造ることに繋がりました。

錦帯橋は多くの家臣たちの手によって、1673年に完成しました。名橋と呼ぶにふさわしい橋です。一つだけ実に残念に思う事は、この錦帯橋ができる前年に独立が亡くなったという事です。もし、独立が錦帯橋を見ていたら、そして歩いて渡っていたならば、どんな言葉で詩を残したでしょうか。

独立は岩国に4回来ました。もちろん広嘉と広正の病気の治療の為です。その時に広嘉と儒学や文化の話をするだけでなく、家臣たちと共に船で錦川の川遊びや、宮島への参詣もしています。岩国の人達のおもてなしです。独立は遊覧したことを詩に読み、書にして残していきました。吉川家に大切に残った書画は、吉川史料館と岩国徴古館にあります。

独立の残した詩書画をみると、きっと錦帯橋についても素晴らしい詩を書き残しただろうと想像できます。そして、広嘉たちも独立と共に錦帯橋を渡りたかったことでしょう。叶わぬ願いになりました。



【横山地区には岩国藩主の住まいがあった。現在は一部が吉香公園となり市民の憩いの場である。像は三代藩主吉川広嘉公】



【錦帯橋】

2回目に岩国を訪れたのは、独立が69歳の夏でした。5か月の滞在中、11月にはもみじ谷にあった浄土院に住んでおり、その前の竜門寺裏庭に接する崖に「一勾」の二文字を彫り残しています。これは「一勾源頭水・・・」という独立の詠んだ詩の二文字です。今もその彫り跡を見ると、350年前にそこにわき出る水を汲んでお茶を飲んだという独立に思いを馳せてしまうのです。

そして、岩国での初めての正月を迎え横山参殿をし、お雑煮を食べたと記録があります。

岩国横山で日本のお正月を満喫した独立の様子が古文書に残っています。

つづく



【独立一勾記念碑】

「一勾源頭水作池 流通頼有何全支」

…自然の偉かさ、永久不変さを一勾の水にみたもの



【独立が彫った文字】

Saryo Ooishi

記 大石 紗蓼

一般財団法人 五橋文庫 館長
岩国篆刻会 会長

